

特集 グローカル

2~4面 YWCAのLASTストーリー

5面 世界YWCA総会2023ハイライト

6~7面 京都YWCA100周年企画

The Young Women's
Christian Association

YWCA

2

〈第33総会期主題聖句〉

平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

〈ビジョン〉

女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切に作る社会

〈ミッション〉

若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉

キリスト教基盤 平和・環境 人権 セーフスペース

FEBRUARY
2024

No.778

www.ywca.or.jp

YWCAの

グローバル & ローカルアクション

「Think globally, act locally——地球規模で考え、地域で行動する」

世界の各地でYWCA運動を担う仲間たちの合言葉です。

それぞれの地域に根差して、女性たちが直面している課題に取り組んでいます。

日本では北海道から沖縄まで24の地域で、

ニーズに即した多彩な活動を展開しています。

一つひとつの活動の根底には、共通の目標があります。

「正義、平和、健康、人権の尊重、持続可能な環境が守られる世界を実現すること」

それは、世界の女性たちが力を合わせ、リーダーシップを発揮することで達成できるもの。

地域の身近な課題と遠い世界の問題は地続きにあります。

今日も、世界に広がるYWCAのネットワークにつながり、

それぞれの場で、世界を変えるアクションを起こしています。



©World YWCA



©名古屋YWCA



緊急告知!

能登半島地震の被災者支援に関する情報は日本YWCA公式サイトで随時公開しています。
みなさまのご協力をお願いいたします。



ローカル
アクション

A ストーリー

YWCAでLAといえば、「ローカルアクション」。現在、複数の地域YWCAが連携し、多彩な活動を展開しています。今回は3つのLAに注目。それぞれの思い、実施までの歩み、心に響いたエピソードなど活動のストーリーから、LAの魅力に迫ります。

1 次世代につなぐ、平和の学びの場を作る

LA 「平和の守り人」

釧路・函館・札幌 YWCA

次の世代につなぐ・地域に開かれた平和の学びの場を作る活動。高校YWCAの生徒や大学生との戦跡フィールドワーク、大学との協働による「ピースマップ・ユースガイド」の育成、平和学習会等を実施する。2024年度は3地域連続平和講演会を開催予定。

出発点は函館YWCAのピースマップ

釧路・札幌間は高速バスで5時間半、函館・函館間はなんと12時間！この壮大なスケールの3地域YWCAをつなぐのは「若い世代と共に平和を考えたい」「地域のだけれども参加できる平和の学びの場を作りたい」という共通の想いです。

LA「平和の守り人」は今期で3回目。「若い世代とともに平和を考える」出発点は、函館YWCA「ピースプランニング委員会」による「はこだてピースマップ」作りと、戦跡フィールドワークの活動でした。観光マップには載っていない、身近な町に刻まれた戦争の跡を一つひとつ歩いて調べた「ピースマップ」。地道な調査と学びの積み重ねの末、地図と詳細な解説を加えた冊子版が完成し、地域の中学校などでも平和学習に活用されるようになりました。LA第2期には北海道教育大学の学生との協働でデジタル版に発展。第3期は大学生がフィールドワークに参加後、「戦争や災害にまつわる観光『ダークツーリズム』



大学生との戦跡フィールドワーク（函館YWCA）

をテーマに意見を交わしました。高校まで仙台市で過ごし、学校で東日本大震災の被災者の体験談を多く聞いたという一人の学生は「学徒出陣や戦争の犠牲者の手記は震災の被災者の話とも重なり、とても生々しく感じられた。戦争の記憶も語り継がれるべきだと感じた」と話しました。将来的には学生自らがフィールドワークを実施する「ピースマップ・ユースガイド」の育成を構想中です。

札幌YWCAも若い世代と共に

第1期に函館でのプログラムを経験した札幌YWCAも、第2期には中高生から大人まで参加する戦跡フィールドワークを実施し、昨夏には高校YWCA東北・北海道地区カンファレンスでのフィールドワークが実現しました。「北海道ノーモアヒバクシャ会館」では高校生が被爆証言や遺品から戦争の実相を感じ取り、北海道大学では「北海道大学ピースガイド」を片手に平和の視点でキャンパスを巡り、戦時中の教育・研究の場で何が起きていたのか、また加害の歴史をも学びました。

釧路YWCAで積み重ねた平和の学び

このLAのもう一つの目標は「地域に開かれた平和の学びの場」を作ること。1974年の創立以来ずっと平和と憲法の学習会を地道に積み重ねてきた釧路YWCAは、今期はオンラインで札幌の「憲法カフェ」での学びを共有し、2024年度予定している清未愛紗さん（憲法学者）の3地域連続平和講演会のための勉強会を計画しています。

また、函館YWCAが夏に実施した「まるごとPEACE館」には延べ120名の来場がありました。札幌YWCAの「憲法カフェ」は、さまざまな角度から平和憲法を考える講座をオンラインと対面で同時開催し、地域を超えた参加者が増えています。

世界各地で対立と分断、戦争が起こり多くの人々が困難に直面する今だからこそ、小さくとも地道な「平和の守り人」としての地域YWCAの活動を続けていきたいと考えています。

札幌YWCA 清田悦子



北海道ノーモアヒバクシャ会館にて被爆証言に耳を傾ける高校YWCAの生徒たち（札幌YWCA）

ローカルアクション (LA ~ Local Action)

24の地域YWCAが、地域や団体の枠を越えて協働して展開する社会貢献活動と、それを支援する日本YWCAの事業。日本YWCAのミッションビジョンに基づいて企画されたアクションプランを地域YWCAから募り、採択されたプランには日本YWCAが資金提供と広報等をサポート。過去2回実施し、第3期の現在は6つのユニークなプログラムが採択された。

YWCAの

2 持続可能なエネルギーのあり方を探る

LA 原発事故から学ぶ私たちの未来

—SDGsとコミュニティパワーの可能性

新潟・福島・静岡・仙台・熊本・函館・松山YWCA

SDGs達成に向けた暮らしの変革を目指し、近隣に原発のある7地域のYWCAが連携。若い世代を巻き込み、九州電力川内原子力発電所見学などのフィールドワーク、周知活動を通して、脱原発による持続可能なエネルギーのあり方とコミュニティパワーの可能性を探る。

失敗を伝えて新芽にバトンを

「古木が倒れないと新芽が出ない。新芽のため、場を広げるために倒れる。倒れた木が新芽を育てるような倒れ方をしたい。思いっきり失敗したことを伝えながら、次はあなたたちの世代だと若い人にバトンを渡していきたい」

なんと深い、勇気と希望のある言葉でしょう。近隣に原発がある7つの地域YWCAのメンバーは、胸が熱くなるのを覚えました。

これは、2022年のYWCAフェスタ(全国会員集会)で、LAのプログラムで行うワークショップの内容について話し合っていた際の、藤井初子さん(松山YWCA会員)の言葉です。3案を1案に絞らない方がいい、SDGsを前面に出して伝えたい、と主張されました。「役に立たない倒れ方はしたくない。若い人には必ず伝わると思う」と。間髪を入れず、渡辺園子さん(福島YWCA会員)から「まったく同感!」の声が上がりました。3案とは、①同じ課題を共有するYWCAがつながることによってインパワーされる、ローカルアクションの可能



南阿蘇でランドスケープ農業O2Farmを営む大津愛梨さんを訪ねて

敵をつくる活動では仲間を増やせない

性。②YWCAの魅力を伝え仲間を増やす具体案。③南阿蘇&川内原子力発電所のフィールドワーク参加を促すため、核と人類は共存できないことを学ぶワークショップです。藤井さんの言葉に促され、メンバーの総意で、3案をすべて実施することが決まりました。

さらに「原発反対」と叫びながら、私たちは電気をちゃっかり使っている。電力会社の人々もみんなの幸せを考えて働いているのに敵対視するのはいかなるものか。敵をつくる活動では、仲間を増やすことは難しいのではないかと藤井さんの意見に、私は大きくうなずきました。

新潟にある東京電力柏崎刈羽原子力発電所は今、再稼働へと傾いています。賛成反対と分断はありますが、避難するとすれば全員が避難しなければならぬので、東電も含めた地域住民の話し合いの場をつくる必要があります。だと考えていたからです。

2011年3月11日の東日本大震災による

東京電力福島第一原子力発電所の事故から2か月後の5月に、加盟YWCA中央委員会が東京都内で開催されました。

「東京の空気がおいしいなんて思ったことはなかったが、息をすることも躊躇されるような原発事故の被害にあり、福島を離れて今、やっと安心して呼吸ができます」と、当時の福島YWCA会長であった渡辺さんの言葉は続きます。「私たちはずっと原発に反対し、福島YWCAもプルサーマルに反対する運動をしていきましたが、このような事故になって、次世代の子どもたちに申し訳ないという気持ちです。福島のような思いは二度と誰にもさせたくありません」。凛とした声は、今も私の耳に響いています。

もうすぐ13年になる原発事故は終わっていません。ALPS処理汚染水の海洋投棄の背後で、「廃炉」が思うようには進まない現実が隠され、880トンあるとも言われるデブリはわずかに取れただけです。「原子カムフラ」はゾンビのように元気になって、ウクライナ戦争を言い訳にして原発再稼働に躍起となっています。

分断を超え、対話できるセーフスペースをつくり出せるはずですが、失敗を恐れず、信頼を培いながら歩みを進めたいと思います。私たちの胸に刻まれた言葉と共に歩み続けます。

新潟YWCA 横山由美子



囲炉裏を囲んで味わう炉端焼きはユースにも大好評

3 出会い つながり 未来を紡ぐ

LA 韓国スタディツアー 日韓の「過去」を知り、「今」を学び、「未来」を作る旅

名古屋YWCA、愛知県高等学校教職員組合女性部

日本と韓国の新しい関係性を築くため、「過去」歴史と政治を学び、「今」フェミニズムや文化を知り、「未来」若い世代の育成や共に取り組む仲間をつくる女性限定ツアー。地元教職員組合女性部と協働し、事前学習会を経て、2023年7月31日〜8月2日に実施。

「韓国に行きたい！」

名古屋YWCAは2023年に90周年を迎えました。それにあたり、さまざまな周年記念イベントを企画していたときに、ユースから声が上がりました。

韓国については、いろいろな想いがよぎります。私自身、戦争により社会の差別意識が強い中で、違和感を持ちながら幼少期を過ごし、YWCAに関わるようになってその差別意識に対抗したり、日本軍「慰安婦」への不当な扱いに怒りの声を上げたりしていました。それに比べて、現在のユースたちは、韓流ドラマに感動し、K-POPに推し活し、韓国コスメに憧れる……。韓国と聞いて感じるイメージは、世代によってかけ離れているようです。

地元の高校教職員組合と協働

YWCAの特徴の一つに「世代を越えた協働」があります。シニア会員がユース会員と協働しているために、「過去」を知り、「今」を学び、「未来」



全国から多世代の女性が参加。学び、語り、食べる……充実した3日間を過ごした

を作る旅をテーマに掲げ、韓国スタディツアーを開催することにしました。ユースに参加を呼びかけることも大切ですが、ユースと協働するためにユースの周辺にいるミドル・シニア世代にも、共に参加してほしいと考えました。また、未来を作る子どもたちを育成する立場である教員からの多くの参加を求めて、ご縁があった愛知県高等学校教職員組合女性部に共催の声掛けをしたところ、快諾を得ることができ、さらに実行委員会に教員4名の参加が決まりました。

教職員組合女性部の教員と協働できたことで、「人権」「平和」以外に「歴史」「教育」に関わるプログラムが実現しました。選択制のフィールドワーク「韓国近代史を学ぶ」「慰安婦問題を学ぶ」「フェミニズム・青少年教育を学ぶ」は、「全部行きたい！」との声が多数ありました。

ツアーには北は宮城県から南は大阪府まで、幅広い年齢層の総勢38名の女性が参加。うち12名がユースでした。たぶん韓国で最も暑い時期でしたが、初日から多くの見学地を訪れ、詳しい解説を聞いて、印象深い経験ができたと感じています。また、2日目には韓国教職員組合の方々との交流会を持ち、韓国と日本の教育事情やその課題を知

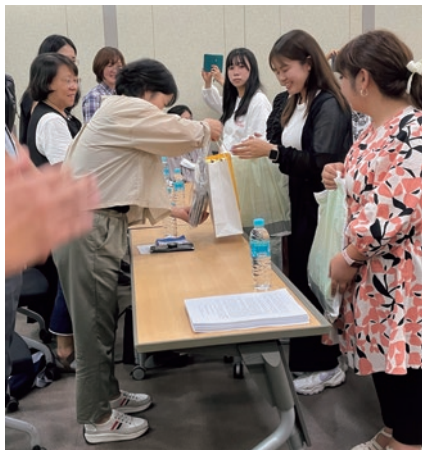
ることができました。盛りだくさん内容を詰め込んだ2泊3日の旅でしたが、女性限定にしたことで多くの方から「安心して参加できた」との声をいただきました。

LAだからできたこと

今回はLAという事業形態のため、ユースの参加費を安価に抑えられたほか、全国規模の広報ができたので、これまでYWCAを知らなかった方々と出会うことができました。その多くが会員になつたのも、うれしいことです。また、他団体のみなさんとの協働によって、お互いに学びを広げることができたと感じています。

「韓国スタディツアー」は現在、「これから」のステージに進んでいます。このスタディツアーでできた輪をより強固なものとするために、韓国教職員組合との継続的な交流や、フィールドワークで訪れたソウルの社団法人「PEACE MOMO」のワークショップ体験を予定しています。今後も教員組合のみなさんと協働しながら、「未来」を紡いでいけたらと考えます。

名古屋YWCA 増井さとみ



韓国教職員組合の教師たちと交流会。最後にプレゼントを贈り合った



どこにいても、世界の仲間とつながっている（世界YWCA総会／2019年）

第30回世界YWCA総会ハイライト

世界各地から2035年に向けて

1898年の第1回大会から30回目となる世界YWCA総会が、2023年11月27日から12月1日にかけて、初のオンラインで開催されました。世界71の加盟YWCAから代議員・オブザーバーを含め650名以上が参加。それぞれの場からつながり、2035年に向けて思いを新たにしました。

史上初のオンライン開催

世界YWCA総会は、4年ごとに世界中のYWCAから代表者が集い、世界運動全体としての方向性を決定する会議です。しかし、開催地までの旅費を賄えないYWCAが参加できず議決権を行使できないため「意思反映に不公平が生じ、定足数を満たすのが困難」という課題を抱えてきました。その対策として、入念な準備のもとオンライン開催が実現しました。日本からは、全国の地域YWCAから6名の代議員と10名のオブザーバーが参加。期間中20時～23時(日本時間)の会議にそれぞれの場からアクセスしました。

決議とステートメント

世界YWCAは共通目標を掲げています。「2035年には、1億人の若い女性と少女が、正義とジェンダー平等を実現し、暴力・戦争のない世界をつくるため権力構造を変革し、すべての女性にインクルーシブで持続可能なYWCA運動を先導します」

この目標の実現に向けたステップとして、2027年の次回総会までの4年間の活動計画「方策と計画の枠組み」とそれに伴う予算が採択されました。

また、世界が直面するさまざまな課題を提示し、世界中のYWCAに行動を起こすことを呼びかける「決議とステートメント」が、世界各国のYWCAから提案され、採択されました。

日本YWCAからは、パレスチナに関する「正義ある平和」決議案への賛同を呼びかける発言を行いました。

またこの総会で、前パレスチナYWCA総幹事ミラ・リゼックさんの世界YWCA会長再任を含め、世界YWCA運営委員会、ならびに候補者指名委員会が発足しました。新運営委員の55%、新候補者指名委員会の40%が30歳以下の女性です。

決議

- ①デンマークYWCA/YMCA 提案
「正義ある平和」
- ②韓国YWCA提案
「東アジアの安全保障と公正な平和のための連帯の構築」
- ③パレスチナYWCA提案
「人権の促進と持続可能性の確保にむけた(中東)地域の運動の支援」

ステートメント

- ①韓国YWCA提案
「放射能汚染水の海洋放出について」
- ②カナダYWCA提案
「世界YWCA運動による先住民族の権利に関する国際連合宣言(UNDRIP)の採択と実施」
- ③オランダYWCA提案
「女性の権利のために世界的に、またこうした反フェミニズムの声に対して断固とした行動を起こすよう呼びかける」
- ④ミャンマーYWCA提案
「ミャンマーにおける武力紛争の中で女性と少女が直面する課題とニーズの保護に関する声明」
- ⑤オーストラリアYWCA提案
「気候緊急事態の女性に対する影響」
- ⑥ポリビアYWCA提案
「女性・青少年・子どもに対する性暴力とフェミサイドに反対するラテン・アメリカ宣言」

日本YWCA国際担当職員 小笠原 純恵

日本YWCAからの参加者の声

- 若い女性たちへの支援のためのシニアの役割の大切さ、ギフトとなるような関わりについて熱く語られた元世界YWCA総幹事の言葉が心に残りました。
- 日本においては特に女性やフェミニズムに対するバックラッシュが依然として厳しい現状がありますが、どこの国もそれぞれ課題を抱えていて、まだまだ女性たちが協力して、互いをエンパワメントしながら変えていかないといけない部分があることを痛感しました。
- フルリモートで会議に100%集中するのは難しいと感じました。しかし、通訳、字幕、チャットグループなどを活用し、インクルーシブな環境づくりに努力していることは感じられます。
- それぞれの地域にいるYWCAメンバーの声を聞き、他の参加者からの共感、共有しているチャットをみて、連帯を実感し、世界YWCA総会の意義を感じました。

京都YWCA物語

古都に咲いて
100年

京都YWCAが初めて発行した周年誌の題名は『古都に咲いて四十年』でした。2023年に100周年を迎えた今日まで、多彩な色の花びらが寄り添って凛々しく咲くアジサイのように、多様な人々が知恵を絞って困難に立ち向かい、女性をエンパワーしてきました。

ページ総幹事とランチ・ベスト幹事が準備金のために行った初のバザーは大盛況だったそうです。22年には山本琴子が総幹事に就任。翌23年3月24日に行われた第1回総会によって京都YWCAが正式に誕生しました。同年9月1日に発生した関東大震災では、京都駅で他団体と共に避難者への炊き出しなどの救援活動に参加しました。

外国人幹事たちの献身的な働きで、女性のための保養所が京都府北部の丹後に開かれ、働く女性のための生活やレクリエーションの指導、女子学生寮の開設、英文タイプ科の設置など次々に新しい活動を展開されました。事務所は、29年に現在の京都御所の西、室町出水に根を下ろしました。

女子教育の発展と
第二次世界大戦

1936年に家政教育中心の「京都女子学院」が設立。一流の講師によって、自治活動、社会見学、施設奉仕などの先端的な教育が行われました。同年、ヴォーリズ設計事務所によって女性のためのホステルが建設。後年「サマリア館」と命名され、京都YWCAの活動を支える建物となりました。

第二次世界大戦が始まると、外国人幹事たちは思いを残しながら全員が日本を去りました。女子学生寮も京都女子学院も閉じられ、会館は京都府庁への貸し出しを余儀なくされました。

新しい憲法の下で
開花した多彩な活動

戦後は新憲法下での民法や児童福祉法を活かすべく、婦人法律相談所、児童相談所、児童図書室を設立し、農繁期には近郊農村の託児所へ奉仕活動に行き、食糧増産を支援しました。また、青年や中学生の夏のキャンプの復活、各地域での「もより会」の開始、さらに湯浅清子副会長が京都市教育委員の選挙に当選するなど、活気にあふれた時代でした。

1951年には、西陣地区で過酷な労働環境下にいる少女たちに「働く少女のための生活教室」を開始。キリスト教の他団体と共に発起人となり、「西陣会」が誕生しました。



設立初期の幹事（職員）と幹部委員たち

70〜80年代は、青年部や中高部の活動が活発になりました。男女を問わず若者たちにとって、学校では得られない自由で自主的な活動の経験は、その後の人生の選択に影響を与え、YWCAを担う人材も育ちました。

現在の活動の基礎が築かれたのもこの時期です。1975年には、今もその精神を受け継ぐ「スリフトショップ」が開催。87年には、現在の「APT（外国人支援のための電話相談）」の前身「AWT」が、また少し下って96年、日本語教室「洛楽」が、それまでの活動の中から生まれました。1991年から2001年には、洛西地区で女性と子どものための洛西センター「じゃむじゃむ」が活動。HIV/AIDSプロジェクト



「働く少女のための生活教室」でミシンを習う少女たち（1951年）

1990年代は憲法改悪の動きに抗し、非核・非暴力運動を活発化。新日米防衛指針の廃案に向けた活動、有事法制反対プロジェクト「武力で平和はつukれない」の横断幕を持った繁華街での定期的なサイレントアピールを始

新事業の模索
平和への思いと、

「PAN」が啓発活動や配食に取り組みました。並行して、原爆絵画展や韓国籍兄弟を支援する「徐兄弟を守る会」など、平和や人権に関する活動はたゆみなく行われました。1995年の阪神・淡路大震災では、被災者支援の拠点となっていた神戸YWCAに大勢のボランティアが駆け付けました。



鈴木伶子日本YWCA総幹事(当時)を招いて行われた年会(2005年)

また親と子どもの育ちを支援する活動として、「絵本の世界」講座シリーズや親子ライブラリーなど、現在の活動の原点が生まれました。建物の大規模補修が必要となる問題に対処するために、2009年には「中期ビジョンプロジェクト」を立

めました。日本YWCA主催の「ひろしまを考える旅」、ハーグ市民平和会議、沖縄での学びなどに会員や職員を送り出しました。2001年9月11日に起きたアメリカ同時多発テロの10日後には、平和の祈りを込めた市民パレードを主催。これは現在の「ピースウォーク京都」につながりました。このように平和への意識と活動が高まった90年代でした。



安心して過ごせる、食でつながる居場所[Yここkitchen](2020年)

ち上げ、会館改修と新事業についての検討を進めました。その中で起きた2011年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故は大きな衝撃であり、被災者支援委員会のもと、募金や物資支援、チャリティイベント、リフレッシュプログラム、福島での学習支援などを続けました。

また、14年には公益財団法人になり、16年からは京都府の若者就労等就職支援推進事業に登録し、若者の就労支援に取り組んでいます。カルーナの入居者、退去者や生きづらさを抱える若者が、「うららかふえ」で働くなどして経験値を高める場となっています。コロナ禍にあった2020年から始まった居場所事業「YここKitchen」は、若者や多文化ルーツの子どもとその家族のセーフスペースとなっています。

多世代・多文化ふれあい
コミュニティづくり

中期ビジョンプロジェクトからの案に沿って、2014年9月にサービステキ高年齢者向け住宅「サラーム」、ふれあいの居場所食堂「うららかふえ」を開始し、翌15年4月から自立援助ホーム「カルーナ」が開所しました。これらの事業案は「女性高齢者に住まいと社会参加の機会を提供する多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」として、国土交通省の「先導的事業」に選定されました。

もっと知るなら!

『古都に咲いて100年
～女性の視点から社会の変革をめざした歴史を未来につなぐ～』

100年の歩みを振り返ると共に、過去から現在にいたる事業・活動を5つのテーマで紹介。活動に関わったゆかりの人々によるコラムでは、活動秘話や人々のストーリーが見える。女性の視点で編まれた近代の大河ドキュメントでもある1冊。

発行/公益財団法人京都YWCA 1000円(送料別)
問い合わせ/京都YWCA事務局 075-431-0351

京都市からの依頼もあり、20年に「京都YWCAあじさい保育園」を開園した結果、京都YWCAでは文字通り、乳児から高齢者まで多世代が集う「ふれあいコミュニティづくり」を展開することになりました。

現在、女性のライフスタイルの変化に合った新しい会員活動の形を模索しています。時代に柔軟に、またねばり強く対応してきた京都YWCAのDNAをつなぎ、これからも歩んでいきたいと思えます。

京都YWCA100周年記念実行委員会



YWCAとパレスチナ支援活動

- 要請書
「現在ガザ地区で起こっているジェノサイド(大量虐殺)を止める報道を!」への個人・団体賛同
- オリーブの木キャンペーン募金
- パレスチナYWCA支援募金
- 世界YWCA声明(日本語版)
「ガザにおけるジェノサイドと女性と子どもへの影響について」



パレスチナYWCA(The YWCA of Palestine)は1893年の創設以来、女性のエンパワメントと平和の実現に取り組んでいます。国際ネットワークとしてのYWCAは、1948年からパレスチナ難民問題への行動を呼びかけ、パレスチナYWCAに連帯しています。日本YWCAのパレスチナ支援は、1991年に平和のためのアクションとして始まりました。2021年のイスラエル軍によるガザ空爆後は、パレスチナYWCAと連携してクラウドファンディングを実施。ガザの子どもたちの心をケアする活動を支援しました。そして今、軍事侵攻の即時停戦とパレスチナに正義ある平和の実現を求めて、それぞれの場でのアクションを呼びかけています。

12月号発送に関するお詫び

『YWCA』2023年12月号(No.777)において、一部の発送に不備がありました。読者のみなさま、関係者のみなさまにご迷惑をおかけしましたことを、謹んでお詫び申し上げます。以後、再発防止に努めてまいります。

公益財団法人日本YWCA代表理事 実生律子

ご協力ありがとうございます

馬場元毅 原紀子 原美左衛門
原田由美子 平櫛紀子 笛木直子
深澤友理 福田公子 古川道子
古谷都紀子 別所加恵 牧甫
松下真佐子 松田和子 村上千代子
桃井明男 森田矩子 山田純子
山本容子 吉田亜希 吉田眺美
渡邊のぞみ
みなも書房

赤石めぐみ 秋元靖子 浅田啓
阿部幸子 五十嵐和子 池上幸子
井澤浩一 井田すみ 伊藤恵子
伊藤眞代 宇都宮芳子 江崎啓子
遠藤真理 笑川光郎 大里喜美子
織田光恵 兼子佐与子 幸田良子
小酒井藍子 小宮一子 近藤眞由美
齋藤知子 齋藤喜子 篠山淳子
佐藤清子 汐崎康子 柴田恵子
清水靖子 杉野孝子 武内富貴代
竹田とし子 田中美紗子 辻井夏子
露木美奈子 都木恵子 得永道子
中尾貢三子 長尾眞理子
中山美津江 西田和子 新田和子
野崎誠一郎 野澤節子 野々村耀
野村春江 野呂幸子 萩尾出穂
畑山みさ子 八村悠紀子 原紀子
原美左恵 原田由美子 深田淑子
別所加恵 牧甫 宮澤玲子
村松武司 桃井明男 森田矩子
森朋子 森山和子 八木高子
山田純子 山本貴美子 吉田亜希
吉田眺美 依田良子
一般財団法人広島YWCA
松山YWCA
匿名

(オリーブの木キャンペーン募金)

磯村美保子 井田すみ 市川真美恵
上村愈巳子 内城恵 宇都宮芳子
梅林宏道 江崎啓子 榎本みつ枝
遠藤真理 大澤恵美子 大西しげ子
小淵眞理 梶井洋子 柏木紗子
加納美津子 川上哲 清塚典子
木田みな子 木本洋 河越英里
具美美佐子 糸みち代 桑原貴子
小泉陽子 神門千子 河野章子
小高聡美 後藤光彦 小宮一子
小村明子 齋藤知子 齋藤康代
齋藤喜子 坂上信子 阪本和子
佐藤清子 サリバン和恵 下村昭子
白井邦子 杉山知子 高橋貞二郎
田林綱紀 張善花 都木恵子
得永道子 友田シズエ 中尾貢三子
長尾眞理子 中西トク子

中村みゆき 西崎敦子 西田悦子
新田和子 仁平のぞみ 根岸朋子
野崎誠一郎 野々村耀 野村春江
野呂幸子 萩尾出穂 林修二
林育一郎 原紀子 原美左恵
原田由美子 福田公子 古田道子
古谷都紀子 別所加恵 牧甫
松岡信子 松田和子 桃井明男
山田純子 吉田眺美 依田良子
和田博子
みなも書房

(パレスチナYWCA支援)

一般財団法人広島YWCA
広島YWCA カンナの会
松山YWCA
匿名

一般財団法人横濱YWCA
NPO法人熊本YWCA
NPO法人熊本YWCA クリスマスチャリティコンサート実行委員会
酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 宗教部
熊本市キリスト教連合婦人会
上野學 榎本みつ枝 嘉屋陽子
川上哲 熊江雅子 庄司浩美
竹田とし子 寺沢京子 中山美津江
永山峰子 西田和子 野崎斐子
笛木直子 藤村幸子 文田則子
日本バプテリスト連盟札幌バプテリスト教会
公益財団法人横濱YWCA
NPO法人熊本YWCA
東日本大震災被災者支援募金
中尾貢三子
日本基督教団市川三本松教会
日本福音ルーテル大森教会
大森ルーテル幼稚園
東洋英和女学院 同窓会
一般財団法人広島YWCA
(2023年10月16日〜12月15日)
敬称略

(カーソポーターズ募金)

カーソポーターズ 54件

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel.03・3292・6121 Fax.03・3292・6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp
編集発行人 実生律子/偶数月1日発行
旬な情報発信しています | メルマガ登録 y-net@ywca.or.jp | フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapan